東葛しぜん観察会 パークプロジェクト

夏休み自然たんけんラリー

藤田 隆

日　時：2022 年 7 月 24 日（日）、場　所：２１世紀の森と広場（松戸市）
参加者：58 人（子ども 30 人、大人 28 人）、指導員 10 人、パーク 2 人

猛暑が続いて夏休みに入った日曜日、35℃超とはいえ風が時折吹いて汗を奪っていってくれました。開始の 13 時には 40 人ほどが集まって 10 人程度を一つの班にしてスタートしました。

最初のポイント「虫の気持ちになってみよう」の説明をしている時です。「クマバチは子どものために蜜を巣に持ち帰ります」と話が終わるや否や、「蜜はどこに溜めるの？」、「どっきり、その答えは用意してなかった」…。「蜜はおなかに溜めて巣に戻ったら、それを戻すと思うよ」と適当に答えたのが当たっていました。「虫は蜜を吸うためにどんな口をしているでしょう？」と質問を投げると、「先がとんがっている」、「それは爪楊枝のようなもの？」、「なんか針の先を花にさしている」…。
子どもたちはよく見ていました。「チョウはクルクル巻いた口の先から蜜を吸ってるよ」 クイズに取り組む子どもたちは飛んで来るクマバチやシジミチョウの口先に目を凝らし、独特の観察眼でとらえ発言していました。動体視力というのでしょうか？　目の付け所が良いことに驚きました。

イネのクイズでは「毎日食べるもの」と説明を始めようとすると、早速「おこめ」と子どもたちから答えが出しましました。それではというので、「ごはんの一杯の中に入っているお米は何粒あるでしょう？」と難題を吹っ掛けてみました。お父さんやお母さんから 300 とか 1000 と返事がきましたが、到底届きません。「約 3000 粒あります」と種明かしをすると、「へーっ！」と驚きの混じった声が上がりました。用意していたとはいえ、スタッフは「やったーっ！」と心でほくそ笑んでいました。

ハス探検では、公園散策中の通りかかりの人が看板を見て、ハスの葉にスプレーで水を吹きかけていました。子どもたちはスプレーを受け取ると早速シュッ、シュッ。「水が丸くなって溜まってるね」「プルプルしている」と様々。そこで種明かし。ハスの葉の表面が凸凹構造になっているので葉が濡れにくくなっていると説明しました。

次の虫とりコーナーでは、アミとプラカップを受け取り草むらへダッシュ。追いかけるだけ追いかけて、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ヤマトシジミがカップに収まりました。ほかにはニイニイゼミ、ウラギンヒョウモン、シオカラトンボが捕まりました。ほかのチームではプラカップを集めて眺めながら、2 つに分けてみようと提案していました。子どもたちはたくさん飛ぶもの（チョウ、トンボ）と、ちょっとしか飛ばないもの（バッタ類）に分けました。「それも一つの分け方だね。そのほかにはどう？」と差し向けました。虫の口に注目させ、草食性、雑食性の分け方を提案しました。エサで分ける視点のインプットでした。

ニオイ探検ではナットウ、コーヒーと独特の匂いをそんな表現でした。最初に匂いを表現した人に引っ張られる傾向が強いことが分かりました。ドクダミ、ヨモギも嗅いでもらいました。ドクダミは摘んだそばから独特のにおいに鼻を背けるしぐさでした。ヨモギは草餅に入っているとヒントを出してもピンとこないようでした。草餅を口にする習慣がないのかもしれない、世代間ギャップを感じた一瞬でした。
総じて、子どもたちの観察眼、推理力、考える力がすぐれていることが分かり、探検ラリーをやってよかったと思いました。

カツラの木に樹名板を付けたポイントでは スマホでQRコードを読んで 樹木情報：音声ガイドやクイズもあって大人も子どもたちも楽しめる企画に盛り上がり、子どもたちの方が操作慣れがあり 虫の画面にも興味が進んで楽しんでいました。